村主、甲賀村主、鞍作村主、播磨村主、漢人村主、今來村主、石寸村主、金村村主、尾張次角村主、是其後也、爾時阿智王、建今來郡、後改號高市郡、而人衆巨多、居地隘狹、更分置諸國、攝津、參河、近江、播磨、阿波等國漢人村主是也、○中略また苅田麻呂の條に、姓氏錄曰、犬養男、從三位苅田麻呂、帝天平寶字八年、特賜人忌寸、などあり、○中略政事要略卷二十六に、姓氏錄云、多米宿禰、出自神魂命五世孫、天日鷲命也、四世孫小長田、稚足彥天皇諡成務御世、仕奉大炊寮、御飯香美、特賜嘉名、負朕御多米、六世孫三枝連男、倭古連之後、天淳中原瀛眞人天皇諡天武御世、改賜宿禰姓、また東大寺要錄末寺章部に、姓氏錄第十一云、神護景雲三年、右大臣中臣朝臣清麻呂、加賜大字、厥後延曆十六年、定成等四十八人、同賜大字、同十七年、船長等卅七人、加賜大字、自餘猶留爲中臣朝臣、とある、この文ども、今の姓氏錄に見えざるを以て、全本なりと云事の非說を辨ふべし、

〔日本紀略嵯峨〕弘仁十年四月庚戌、勘本系使中務卿萬多親王、中納言藤原朝臣緒嗣等、奏曰云々、伏據舊記、判定訛謬者、許之、

〔實隆公記〕文龜二年六月十五日丙辰、今日日本紹運錄、終書寫功、　廿一日壬戌、帝王紹運錄、愚本終書功了、　廿三日甲子、禁裏紹運錄御本、近代分依仰書繼之、所々僻字等、同直進上之、

〔水戸本本朝皇胤紹運錄〕奥書　本云

文龜壬戌○二年林鐘中旬、申出禁裏御本、西山內府公（藤原滿季）筆、銘後小松院宸筆云々、凌炎暑之病眼、終書功者也、不可外見矣、

幕府撰氏族志

權大納言藤○判實隆

〔寛永諸家系譜傳二〕寛永諸家系圖傳序

本朝諸家の系圖、世に傳はる事久し、鹿苑院殿○足利義滿の時に、大納言藤原公定うけたまはりて、分脈圖をえらび、嫡子庶子の本末をわけて世におこなふといへども、なをいまだつまびらかなら